

# 令和2年度 真壁城跡中城庭園の調査

主催 桜川市教育委員会

## 史跡真壁城跡と調査の概要

- ・内容 真壁氏累代の居城（室町～安土桃山時代）
- ・場所 桜川市真壁町古城・山尾。筑波山塊から西にのびる舌状台地上に立地。
- ・指定 平成6年（1994）10月28日（国史跡）
- ・調査 平成9年（1997）に遺構の保護や史跡整備のための調査を開始。これまでに二の丸・中城・外曲輪で部分的な調査を実施。現在は中城庭園の全体像解明を目指して調査を継続中。



## これまでの中城庭園の調査成果

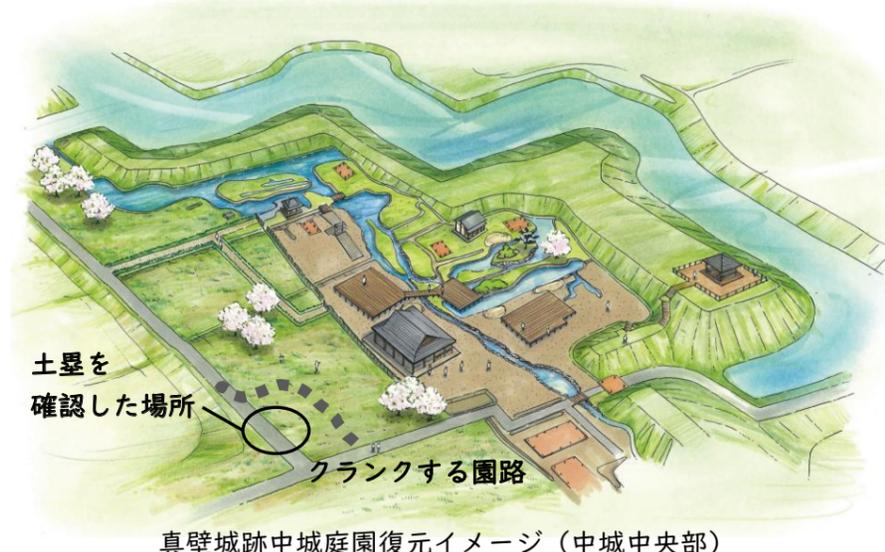
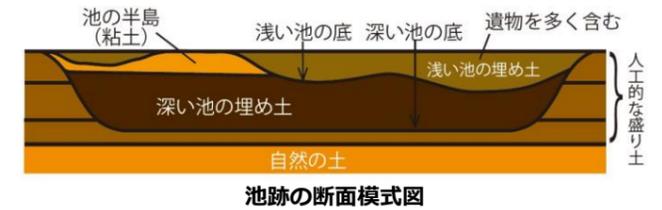
- ・中城庭園の発見  
平成16・17年度（2004・2005）に大規模建物群や舞台状建物、茶室、池などの遺構を確認しました。これらは迎賓館的な役割の建物群とそれにとまなう茶庭（茶室のある庭園）で、1550年頃から1602年までの間（真壁久幹・氏幹の時代）に造られました。
- ・庭園の広さは県内最大  
それ以降も茶室や池、園路などの遺構を確認し、池跡は約1,500㎡、庭園全体は少なくとも8,000㎡以上の規模があることがわかりました。これらは同時期の城内庭園（苑池）として県内最大です。
- ・中城庭園の出土物  
中城庭園では計10万点を超える土器・陶磁器などの破片が見つっています。大規模建物群などで繰り返し酒宴が行われたためか、出土物のほとんどがかわらけ（素焼きの酒杯）です。陶磁器は貴重な輸入品（中国景德鎮産の染付磁器や中国龍泉窯産の青磁大皿など）や茶道具（天目茶碗や風炉）があります。そのほか香道具（香炉や銅製箸）や遊び道具（碁石やすごろくの駒）なども出土しました。

・中城中央部→小規模な土塁や園路などを確認  
小規模な土塁は中城中央部南西の堀ぎわで見つかりました。基部（土台）の部分のみが残されていましたが、出土物から真壁氏幹の時代（1575年頃～1602年）につくられたことがわかりました。小規模な土塁はこれまでに中城北部でもみつかったいましたが、中城中央部での発見は初めてです。規模は確認できた範囲で東西4.3m×南北2.8mですが、今後の調査でさらに範囲が大きくなる可能性があります。この土塁の役割は付近の園路がクランクしているため、敵の直線的な進行を遮るための障壁と考えられます。



園路はこれまでの調査で分岐しながら庭園や大規模建物群へとつながることがわかっています。幅は1.0～1.2mで、長さは今回分を合わせると長いところで73m、分岐も含めると100m以上で長大な園路であることがわかりました。園路の上には砂や玉石敷きの部分があります。

・中城南部→池跡の調査を実施  
池跡は出土物から真壁久幹の時代（1550～1575年頃）のもので、短い期間に造成から埋め立てが行われたことがわかりました。今回の調査で確認できた池跡の範囲は東西14m×南北11mで、中城中央部の池と比べて規模が小さいことがわかります。また、浅い池の時期と深い池の時期があることもわかりました。深さは浅い池は10～20cm、深い池は30～50cmです。池跡の中には半島状の地形がみられ、所々に庭石とみられる20～60cmの大きさの石が配置されています。



# 史跡真壁城跡 中城庭園遺構模式図

(中城地区中央部・南部)

※令和2年12月 現在

表示の意味

- 城道
- 園路
- 堀・垣根
- 飛石(跡)
- 土器廃棄
- 園路導線
- 水の流れ

0 10m



中城地区北部



土壘

Ⅲの堀

Ⅱの堀

薬研堀状の池  
(貯水・排水用)



仮設道路

北池

中城地区  
中央部

城道

中門

井戸

水路状の池

櫓?

待合

大型建物

南池

砂敷き  
垣根跡

小規模な  
土壘

主殿

会所

A地点

令和2年度の  
調査範囲

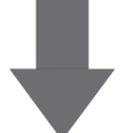
園路3

B地点

道路側溝

じょうどう  
城道

築波山方向



半島

井戸

中城地区  
南部

池

土壘

土橋

外曲輪方面